

# 東日本大震災後の語りと支援 ～海外NPOに関わって学んだこと～

いとうたけひこ(和光大学)

2014年秋の研究集会 平和心理学分科会  
ミニシンポ「国際NGO/NPOとの協同による東日本大震災への支援から考える心理学の課題」

2014年11月2日(日曜日)9時～12時  
ホテルKKR 仙台

# (1) 東日本大震災後の語りと支援 ～海外NPOに関わって学んだこと～ いとうたけひこ(和光大学)

- 今回の東日本大震災を、私は広義の被災地に暮らす者として経験しました。
- これをきっかけにポジティブ心理学と出会い、また日本の国家体制やメディアの役割ということについて考えさせられ、
- 私の生き方や研究課題にも大きな影響を及ぼしました。

# 311Earthquake-tsunami-nuclear disaster from a viewpoint of a peace psychologist

平和心理学者から見た東日本大震災：  
地震と津波と原発事故にどう立ち向かうか？

Takehiko Ito

Wako University, Tokyo, Japan @ (0.05-0.21)  $\mu\text{Sv/h}$  (range)

Paper presented at the 12<sup>th</sup> International Symposium on the  
Contributions of Psychology to Peace Research

University of Cyprus, Cyprus

June 6-11, 2011



(3) The quest narrative(2): Takeda( who used to be a impeller of Nuclear Plant) (2011)' s criticism of *NHK* (*national broadcast association with two TV channels*)

**On the nuclear accident NHK (and many of commercial TV stations)**

- 1) did not broadcast the explosion scene (The Japanese could see it only on websites)**
- 2) did not alert for the evacuation when the radiation ingredients were spread (NHK reporters escaped from the site the next day)**
- 3) broadcast “no immediate health effect” by the Government without criticism**
- 4) did not broadcast that the 1mSv/year criteria had been approved by Japanese laws.**
- 5) accused the rejection of contaminated vegetables as “rumor-driven”**
- 6) broadcast the food under the tentative criteria as “safe” although knowing it was not**

**His conclusion:** NHK has ruined children's health.

# Media literacy & free flow of information are necessary

- Micro-level media literacy

Examine provided information correct or not.

Examine what is NOT mentioned

- Macro-level media literacy

Background ideology, commercialism, political control etc.

© Free flow of information as a culture of peace.

# ポジティブ心理学再考

尾崎真奈美 M. Ozaki



Inclusive Positivity :  
The second movement of positive psychology

ナカニシヤ出版

## ポジティブ心理学再考

2012年10月10日 初版第1刷発行 (定価はカバーに  
表示してあります)

編者 尾崎真奈美

発行者 中西健夫

発行所 株式会社ナカニシヤ出版

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15番地

Telephone 075-723-0111

Facsimile 075-723-0095

Website <http://www.nakanishiya.co.jp/>

E-mail [ilhon-ippai@nakanishiya.co.jp](mailto:ilhon-ippai@nakanishiya.co.jp)

郵便振替 01030-0-13128

装幀＝白沢 正／印刷・製本＝ファインワークス

Copyright © 2012 by M. Ozaki

Printed in Japan.

日本音楽著作権協会 (出) 許諾第 1211030-201 号

ISBN978-4-7795-0694-9

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。  
本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用で  
あっても著作権法上認められておりません。

## 第1章 東日本大震災についての語り

いとうたけひこ

幸せを語りなさい。あなたの苦悩を除いたところで、世界は悲し  
みに満ちているのだから。

オリゾン・スイート・マードン

### 1. はじめに

2011年3月11日に東日本を襲った大震災では、3つの災厄が人々を襲いま  
した。その第一は地震です。第二は津波です。これらは天災と言っていいで  
しょう。地震の被害も甚大でしたが、津波の高さも防波堤を乗り越えてくるほ  
どで、多くの被害を出しました。それに加えて、第三の福島第一原発事故によ

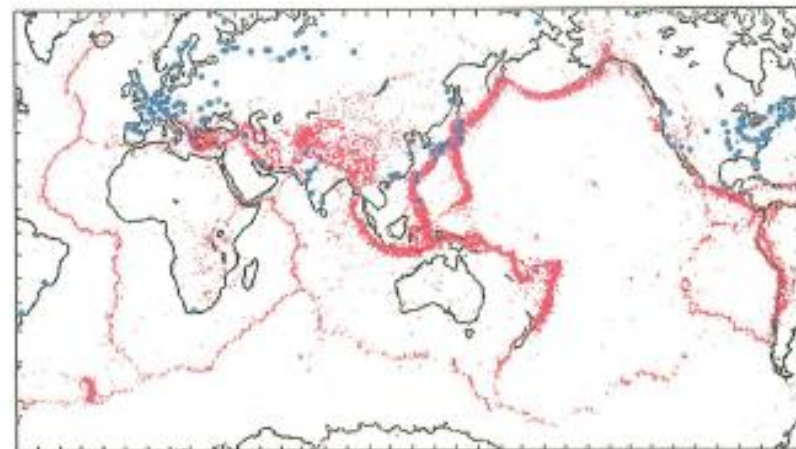


図1-1 地震帯と原発所在地の重なり (内田正夫 (和光大学) 作成:『理科年表』より)

赤点: 世界地震分布図 (M4以上, 1975~1994; 九巻『理科年表』より) 青点: 原発立地点  
地震マップと原発マップを重ねるこの表示法は、茂木清夫 (元地震予知連絡会会長) の著書・講演によ

## 東日本大震災後の節電問題についての大学生の批判的思考

節電不要論を主張するテレビ番組視聴後の節電意識の変化

いとうたけひこ<sup>1</sup>・村田洋平<sup>#1</sup>・杉田明宏<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>和光大学・<sup>2</sup>大東文化大学)

**目的** 本研究の目的は、現在の発電能力で充分供給量が足りており、2011 年夏の節電は不要であったという主張のテレビ番組を視聴することにより、節電に関する意識が変化するかどうかを調査することである。

**方法 手続き:** 番組の視聴前後に質問紙を用いて調査を行った。事前テストの質問紙は戸塚(2002)の「環境問題についてのアンケート」のうち電力不足問題に関する 15 項目 4 件法の質問を過去形で問うた。映像を視聴した後の事後テストは (1) 戸塚(2002)の 15 項目 4 件法に加え (2) 映像についての意見 6 項目 2 件法、そして、(3) この映像の感想を問うた。対象者 対象者は大学 51

下記の 2 つの表は「今後、深刻な電力不足問題が起きる可能性は大きい」という設問(生起確率認知)に対する事前と事後の変化を表したものである。事前から事後にかけて、「まったくそう思わない」は 2.1%→12.5%、および「そうは思わない」g は 35.4%→52.1%と増加し、「そう思う」は 56.3%→31.3%、「非常にそう思う」は 6.3%→4.2%と減少した。この変化は、間隔尺度と見なして検定すると、 $M = -.39$ ,  $SD = .70$ ,  $N = 48$  で効果量  $d = .56$  であり「中ぐらいの」効果量が得られ、統計的に有意な変化であったといえる ( $t(47) = -3.880$ ,  $p < .001$ ;  $CI [-.60 \text{ } -.19]$ )。全体の 40% (19 名) にビデオ視聴のプラスの効果が見られ、Wilcoxon

From the US 9/11 attacks to the  
Japanese 3/11 earthquake

## メディアリテラシーの話

Takehiko Ito (Wako University)

[take@wako.ac.jp](mailto:take@wako.ac.jp) [www.itotakehiko.com](http://www.itotakehiko.com)

Division 11: Political Psychology Presidential Address

<http://www.icap2014.com/divisional-programs/div-11-political-psychology/53>

11:00-12:00, Sunday, July 13, 2014

Room 212/213, The Palais des Congrès - Paris France

28<sup>th</sup> International Congress of Applied Psychology  
8-13 July 2014

## (2)

- 東日本大震災発生の直後から、PTSDと深く関連する心的外傷後成長(PTG)という人間の強さや回復力に着目したモデルに出会いました。
- 被災者の語りのなかに、それがどのように表現されているかに興味を持ち、子どもの作文などの分析を試みました。

## 東日本大震災 2 ヶ月後の大学生のトラウマ後の成長

—日本語版外傷後成長尺度 (PTGI-J) の因子構造の検討—

○中川拓<sup>1)</sup> いとうたけひこ<sup>2)</sup>

(<sup>1)</sup> 聖徳大学大学院 (<sup>2)</sup> 和光大学)

キーワード: トラウマ後の成長、災害、大学生

【問題と目的】 Posttraumatic Growth (PTG) とは、「危機と呼ばれる出来事や困難な経験との精神的なもがきや闘いの結果生ずるポジティブな心理的変容の体験」(宅, 2010)である。宅(2010)の日本語版外傷後成長尺度 (PTGI-J)、研究目的は、東日本大震災から1年以上が経過した経験者の語りを調べるとともに、PTGが確認できるかどうかを明らかにする。その前提として今回はPTGI-Jの因子構造を検討する。

【方法】研究協力者: 2011年5月21日、W大学生97名(男性41名、女性56名)を対象に授業中に質問紙調査を行った。このデータを基にPTGが確認できるかどうかをPTGI-J(宅, 2010)によって測定し、SPSSによって因子構造の検討を行った。

【結果】因子分析ではプロマックス回転とバリマックス回転で3, 4, 5因子の因子分析を行なった。しかし、因子構造の再現性は見られなかった。したがって Tedeschi & Calhoun(1996)のオリジナルの5因子構造も宅(2010)の4因子構造も因子的妥当性を確認することはできなかった。

ちなみに、Tedeschi & Calhoun(1996)のオリジナルの5因子構造とは、PTGの評価尺度 Posttraumatic Growth Inventory(PTGI)である。第1因子は「他者とのつながり」であり、人間に対するおもいやりや親密感を覚える、あるいは人間のすばらしさを知る、自分の感情を出すことをよいと思うといった他者との関係に焦点が当てられた成長が含まれる。第2因子は「新たな可能性」であり、過酷な出来事をきっかけに新たな道やチャンスといった可能性を見出すことへの成長が含まれる。第3因子は「人間的強さ」であり、自分の強さを知り、自分自身に対する信頼を獲得するといった人間としての強さへの成長が含まれる。第4因子は「スピリチュア

ルな変化」であり、宗教的な信念や神秘的な事柄に対する何らかの理解や興味が強まる変化が含まれる。第5因子は「人生の再認識」であり、自分自身の人生に対する感謝や価値を見出すことなどが含まれる。

これに対して宅(2010)はTedeschi & Calhoun(1996)のPTGIを基に日本語版PTGI(PTGI-J)を作成し、その中で第4因子と第5因子の2つの因子を統合して、「スピリチュアルな変化と人生の再認識」という第4因子を含む4因子構造によって評価を行った。

次に、宅(2010)のPTGI-Jの4因子について信頼性分析を行なった。 $\alpha$ 係数、因子1は $\alpha = .858$ であった。因子2は $\alpha = .813$ であった。因子3は $\alpha = .710$ であった。因子4は $\alpha = .652$ であった。したがってある程度の内的一貫性が確認されたので、宅(2010)の4因子構造を採用することが考えられた。

Table.1は宅(2010)による4因子構造による各相関の結果である。因子1と因子2の相関係数は、 $r = .743$ であり、因子1と因子3は、 $r = .530$ であり、因子1と因子4は、 $r = .708$ であり、因子2と因子3では、 $r = .587$ であり、因子2と因子4では、 $r = .664$ であり、因子3と因子4では、 $r = .434$ であった。いずれのペアも相関係数が高かった。

【考察】宅の4因子構造は、アルファ係数からは確認されたが、因子的妥当性は見られなかった。因子間相関が高いことから、1因子とみなしても問題が無いようである。

【文献】宅香葉子(2010)がんサバイバーの Posttraumatic Growth 腫瘍内科, 5(2), 211-217.

# PTG: 5つの因子

(Tedeschi & Calhoun , 1996)

- ①「他者との関係」、
- ②「新たな可能性」、
- ③「人間としての強さ」、
- ④「精神的(スピリチュアルな)変容」、
- ⑤「人生に対する感謝」

# “Posttraumatic growth after 3/11 earthquake-tsunami-nuclear disaster:

Its relationship with attribution style, sense of coherence, and attachment style

OZAKI, Manami (Sagami Women's University)

ONODERA, Tetsuo (Rissyo University)

ITO, Takehiko (Wako University)

173 Ito, T, 2014 Effects of tsunami and nuclear disaster on children's time perspective: A text mining study of essays after the Great East Japan Earthquake *Journal of International Society of Life Information Science*, 32, 44-46.

44

***Journal of International Society of Life Information Science (ISLIS)***

*J. Intl. Soc. Life Info. Sci.*

*Vol.32, No.1, March 2014*

***The 37th Symposium on Life Information Science***

*March 15-16, 2014, Toho University Omori Medical Center, Tokyo, Japan*



## **Effects of Tsunami and Nuclear Disaster on Children's Time Perspective**

### **-A Text Mining Study of Essays after the Great East Japan Earthquake -**

**Takehiko ITO**

*Department of Psychology and Education, Wako University (Tokyo, Japan)*

**Abstract:** The purpose of this study was to examine the essays written by children who experienced the Great East Japan Earthquake in order to clarify the characteristics of these essays focusing on the difference between tsunami and nuclear disaster experiences. A total of 161 essays written by school-aged children were extracted for text mining analysis concentrating on their expressions of will and want for the present and future. While after the tsunami incident children mentioned the importance of conveying the crisis experience for future generations, the children experiencing the nuclear disaster expressed their want (desire) to lead a life free from restrictions such as playing outside and meeting with friends and family from whom they had been separated. Although the tsunami experience evoked children's will to remember the painful incident for the future, the children experiencing the nuclear contamination evoked their wants about their present and future life.

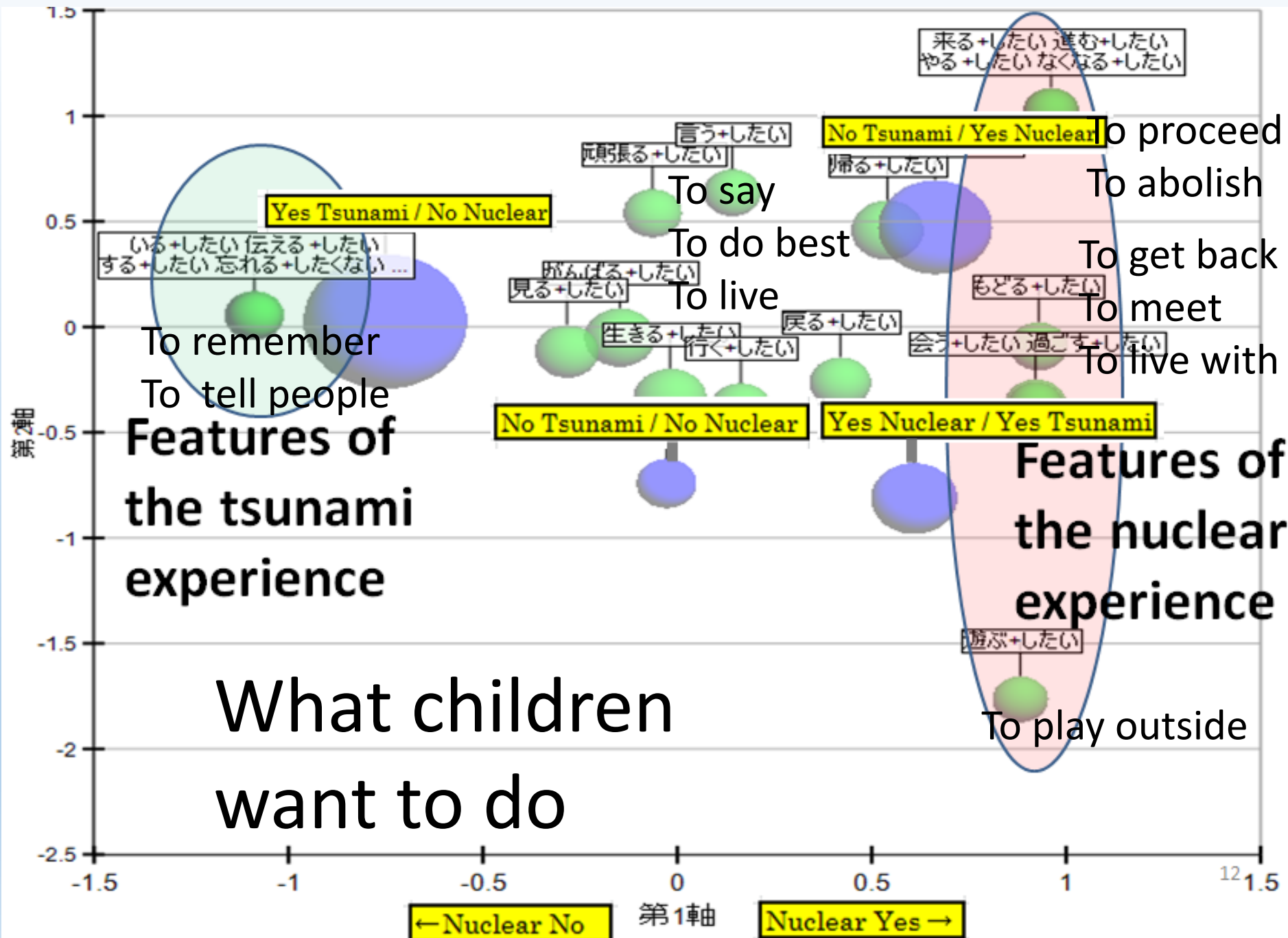
**Keywords:** earthquakes, tsunami, nuclear plants, text mining, time perspective

### **1. Introduction**

The Great East Japan Earthquake, which occurred on

Fukushima Children's Project for the Future, edited by Minoru Kamata (2012).

Using these publications, we proceeded to explore



# 311震災の子どもたちの作文に おける心的外傷後成長（PTG） ーテキストマイニング研究よりー

いとう たけひこ    飯島 有紀恵  
（和光大学）（相模女子大学）

[take@wako.ac.jp](mailto:take@wako.ac.jp)

第35回国際生命情報科学会（ISLIS）学術大会  
2013年3月16日15:40-16:00  
横浜国立大学理工学部講義棟A棟A-202

160 Ito, T., & Iijima, Y.(2013). Posttraumatic growth in essays by children affected by the March 11 Earthquake Disaster in Japan: A text mining Study. *Journal of International Society of Life Information Science*, 31, 67-72.

*Journal of International Society of Life Information Science (ISLIS)*  
J. Intl. Soc. Life Info. Sci. Vol.31, No.1, March 2013  
**The 35th Symposium on Life Information Science**  
March 16-17, 2013, Yokohama National University, Kanagawa, Japan



67

## **Posttraumatic Growth in Essays by Children Affected by the March 11 Earthquake Disaster in Japan -A Text Mining Study-**

**Takehiko ITO<sup>1)</sup> and Yukie IJIMA<sup>2)</sup>**

<sup>1)</sup> *Department of Psychology and Education, Wako University (Tokyo, Japan)*

<sup>2)</sup> *Department of Humanistic Psychology, Sagami Women's University (Kanagawa, Japan)*

**Abstract:** The purpose of this study was to examine the essays written by children who experienced the Great East Japan Earthquake in order to clarify the characteristics of these essays and explore about the possibilities for posttraumatic growth (PTG) from the five factors in Posttraumatic Growth Inventory by Tedeschi & Calhoun (1996). Totally 161 essays written by school-aged children were extracted for text mining analysis. The average length of the essays was 601.9 characters and there were a total of 6,052 sentences. The total number of content words for all the essays analyzed was 39,415, and 6,465 words were retrieved. We see clearly in the children's essays the spiritual growth of these young people who had undergone such trauma during the Great East Japan Earthquake, including injuries and serious illness, the death of loved ones, and total disruption of their lives. From out of the various tragedies from the disaster, we see PTG clearly revealed.

**Keywords:** Posttraumatic Growth, Self-Esteem, Disaster, Earthquakes, Tsunami, Nuclear Plants, Positive Psychology

### **1. Introduction**

#### **1.1 The Great East Japan Earthquake and PTG**

self-esteem that is created by shared experiences and posttraumatic growth.

Posttraumatic growth, children's experiences will be

Ito, T., & Iijima, Y.(2003). Posttraumatic growth in essays by children affected by the March 11 Earthquake Disaster in Japan: A text mining Study. Journal of International Society of Life Information Science, 31, 67-72. の和訳（当日配布）

### 3.11 震災の子どもたちの作文における心的外傷後成長（PTG）

#### ーテキストマイニング研究よりー

(Posttraumatic Growth in Essays by Children Affected by the March 11 Earthquake Disaster in Japan  
-A Text Mining Study-)

いとう たけひこ<sup>1</sup>、飯島 有紀恵<sup>2</sup>  
(Takehiko ITO<sup>1</sup> and Yukie IJIMA<sup>2</sup>)

<sup>1</sup> 和光大学 心理教育学科（日本、東京）

<sup>2</sup> 相模女子大学人間心理学科（日本、神奈川県）

第35回国際生命情報科学会（ISLIS）学術大会

2013年3月16日 15:40-16:00

横浜国立大学理工学部講義棟A棟 A-202

要旨：本研究の目的は、東日本大震災を経験した子どもたちの作文から、子どもたちの語りの特徴を明らかにし、基本的自尊感情の再構成およびPTGの存在と可能性を明らかにすることである。収集した作文169編のうち、小学校、中学校、高校に在学していることが明らかな161編を分析の対象とした。一人当たりの作文の文字数を表す平均行長は601.9文字であった。総文数は6052文で、平均文長は16文字であった。内容語ののべ単語数は39415で、単語種別数6465だった。未曾有な体験としての東日本大震災は、外傷、つまり危機的な体験およびそれに引き続く苦しみの中から、精神的な成長が体験されることがあるということが、子どもの作文の表現と内容から明らかになった。さまざまな悲劇を生み出した災害が、PTGを促進させるという面をもつことが明らかになった。

**Keywords:** Posttraumatic Growth, Self-Esteem, Disaster, Earthquakes, Tsunami, Nuclear Plant, Positive Psychology

162 西野美佐子・いとうたけひこ 2013 東日本震災を体験した大学生の文章のテキストマイニング: 基本的自尊感情(共感的自己肯定感)と心的外傷後成長(PTG)に焦点を当てて 東北福祉大学大学院紀要, 10, 45-63.

## 東日本震災を体験した大学生の文章のテキストマイニング

—基本的自尊感情(共感的自己肯定感)と心的外傷後成長(PTG)に焦点を当てて—

西 野 美佐子<sup>※1</sup>

いとうたけひこ<sup>※2</sup>

キーワード: 心的外傷後成長 (PTG)、東日本大震災、大学生、記述文

### 1. 問題

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、地震と津波さらには原子力発電所の人災とも言えるトラブルが重なる未曾有の複合震災であった。この大震災がもたらした被害は、死亡・行方不明者を含み2万人

# Post-Traumatic Growth in Narratives of Children and Adolescents Affected by the 3/11 Earthquake, Tsunami and Nuclear Disaster in Japan

Takehiko ITO  
Wako University (Tokyo, Japan)  
[take@wako.ac.jp](mailto:take@wako.ac.jp)

13<sup>th</sup> International Symposium on the  
Contributions of Psychology to Peace  
Banquet Hall IIUM, Gombak, Malaysia  
June 12, 2013, 10:30–12:00

## Division 11: Political Psychology Invited Symposium

<http://www.icap2014.com/divisional-programs/div-11-political-psychology/53>

# Posttraumatic growth after disaster and violence in Japan, Afghanistan and Norway

Convener: Takehiko Ito (Wako University, Japan) [www.itotakehiko.com](http://www.itotakehiko.com)

### Speakers:

(1) **Nina HANSSEN (Norway)**- How survivals from the terror attack in Norway 22th July 2011 can find flow, engagement and enjoyment after the extreme experience. (ICAP14-ABS2046)

[Nina.Hanssen@lomed.no](mailto:Nina.Hanssen@lomed.no)

(2) **Waheeda KHAN (India)** - Posttraumatic Growth and Well-being of males and females exposed to violence in Afghanistan (ICAP14-ABS5797) [profwkhan@gmail.com](mailto:profwkhan@gmail.com)

(3) **Takehiko ITO (Japan)** - Posttraumatic Growth in Essays by Children after the March 11 Earthquake Disaster in Japan (ICAP14-ABS5148) [take@wako.ac.jp](mailto:take@wako.ac.jp)

(4) **Manami OZAKI (Japan)** - The Joy of Giving as Sustainable Well-being: Based on the PTG studies after the 311 Disaster in Fukushima, Japan (ICAP14-ABS4501)

[manami\\_ozaki@hotmail.com](mailto:manami_ozaki@hotmail.com)

15:00-16:30, Friday, July 11, 2014 (90 minutes: 15-20 minutes for each presentation)

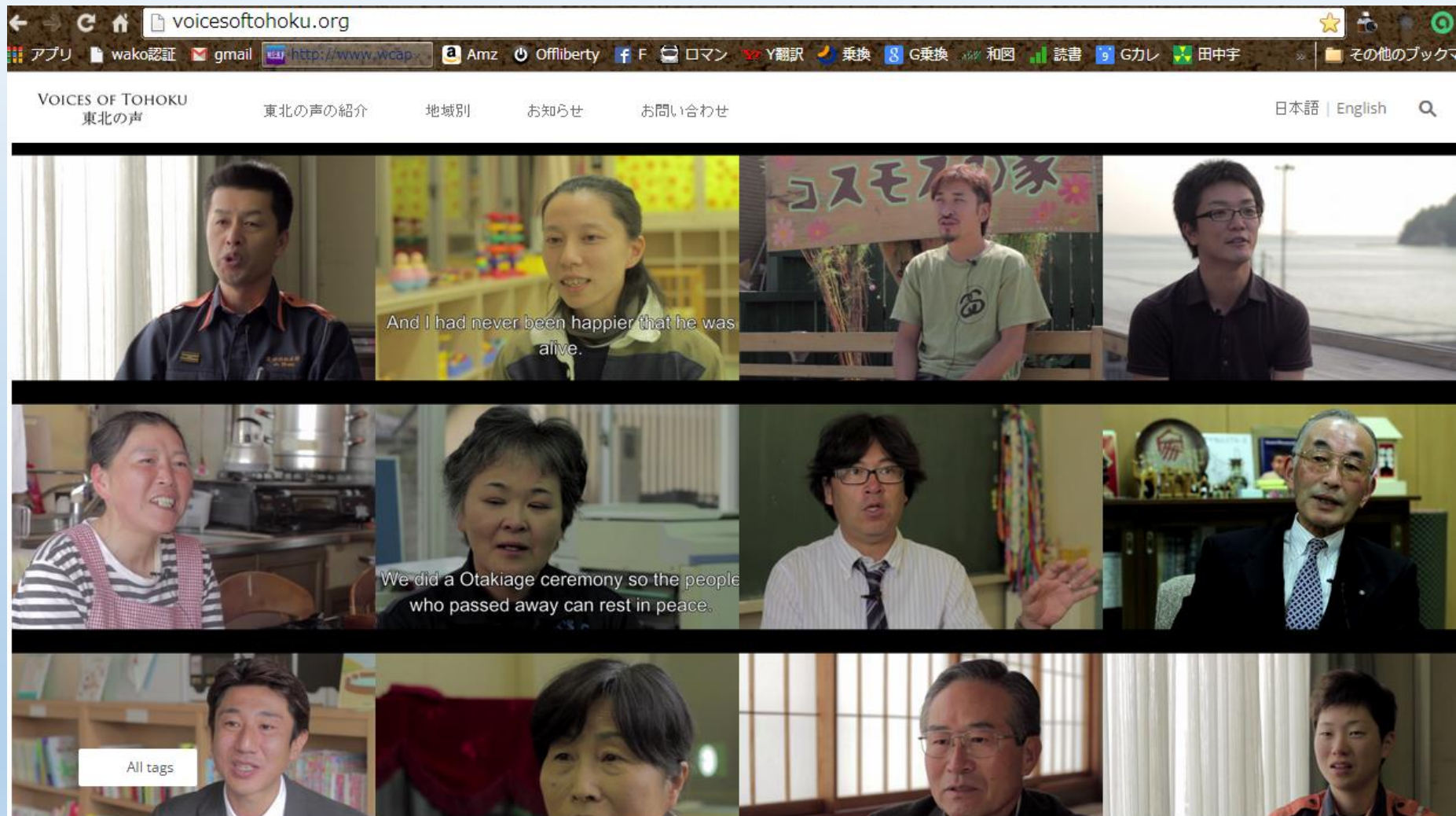
28<sup>th</sup> International Congress of Applied Psychology

8-13 July 2014 at the Palais des Congrès - Paris France

### (3)

- こうした研究と関連して、国際NPOイスラエイドに出会いました。
- その活動を本日詳しく紹介します。
- そのプロジェクトの一つである、「東北の声」は、語りの収録と保存活動を通しての、苦しい体験のなかの成長とコミュニティ再生のために意義ある取り組みであると実感しました。8月に語りをとおしての被災体験学の構築を提起しました。

# 東北の声 [www.voicesoftohoku.org](http://www.voicesoftohoku.org)



# 東日本大震災の記録における心的外傷後成長(PTG)

「東北の声」のライフストーリー研究とテキストマイニング研究より

いとう たけひこ

(和光大学・JISP)

[take@wako.ac.jp](mailto:take@wako.ac.jp)

「3. 11から学ぶ～未来へ備える」立食会

2014年3月7日18:30-21:30

ヒルトン東京 3階 大和の間

# 東北の声（単行本 非売品）



東北の声  
voices of tohoku

# 東日本大震災の被災者の語りの特徴

## ～『東北の声』における心的外傷後成長～

(Posttraumatic Growth: PTG)

井上孝代(明治学院大学)  
いとうたけひこ(和光大学)

第21回多文化間精神医学会学術総会  
一般演題4－1  
2014年5月24日(土) 15:30-16:45  
長崎大学: C会場(良順会館 1F, 専斎ホール)



## 和光大学 2014 年 8 月 28 日午後□講演とシンポジウム

### 「語りに基づく苦労体験学」

- 企画趣旨：サイコストーリー研究で著名なイスラエルの [Amia Lieblich](#) 先生が来日される機会に、公開研究会規模の講演とシンポジウムを開催します。・患者体験学（Health-experience-research）、被災体験学（Disaster-experience-research）、援助体験学（Helper-experience-research）などの総称として苦労体験学（Suffering-experience-research）という用語を編み出してのはじめての企画です。皆様のお越しをお待ちしております。
- 日時□2014 年 8 月 28 日 12:30-17:30
- 場所：和光大学 A 棟 4 階□第2会議室
- 参加費：無料（夜の懇親会は有料）
- 主催：和光大学総合文化研究所□研究プロジェクト「東日本大震災の被災者の語りにみられる人間的成長のミックス法による分析：心的外傷後成長に焦点を当てた質的分析とテキストマイニング」
- 共催：JISP（一般社団法人日本イスラエイド・サポート・プログラム）
- 問い合わせ・連絡先：いとうたけひこ（伊藤武彦）([shimoebi](mailto:shimoebi@markgmail.com) アットマーク gmail.com)
- スケジュール
- 12:30-13:30□受付と映像記録「東北の声」上映
- 13:30-13:40□企画趣旨説明
- 13:40-15:10□[アミア・リーブリッヒ](#)先生講演会「心的外傷後成長に対する語りの研究の貢献」（日本語通訳付き）
- 休憩（20分）
- 15:30-17:30□苦労体験学（Suffering-experience-research）シンポジウム「語りに基づく患者体験学・被災体験学・援助体験学の構築」（すべて日本語）

# 15:30-17:30 苦勞体験学（Suffering experience research）シンポジウム「語りに基づく患者体験学・被災体験学・援助体験学の構築」（すべて日本語）

## 話題提供者

- 1) 佐藤（佐久間）りか（(DIPEX-Japan：医療社会学）「不治の病いの患者体験学（Health experience research）」
- 2) いとうたけひこ（和光大学：心理学）「心的外傷後成長から見た「東北の声」の被災体験学（Disaster experience research）」
- 3) 井上孝代（明治学院大学名誉教授：マクロ・カウンセリング）「東北被災者への援助体験学（Helper experience research）への語りの役割」

## 指定討論者

Amia Lieblich (The Hebrew University of Jerusalem and the Academic College for Society and the Arts, Israel)

水野修次郎(麗澤大学：カウンセリング心理学)

# 「心的外傷後成長から見た「東北の声」の被災体験学（Disaster experience research）」

いとうたけひこ  
（和光大学：心理学）

苦労体験学（Suffering experience research）シンポジウム  
「語りに基づく患者体験学・被災体験学・援助体験学の構築」

2014年8月28日15:30-17:30

和光大学A棟第2会議室  
(25分間)

## (4)

- 今回の報告ではさらに、今後の支援にも役立つことを願い、私が参加している一般社団法人JISP(日本イスラエイド・サポート・プログラム)の中で行っている活動を紹介します。

## (4)ー0 社団法人 日本イスラエイド・サポート・プログラム(JISP)

- イスラエイドについて:
  - イスラエイド(IsraAID)は、自然災害や人災の復興支援と長期的な開発援助を目的とする国際人道支援活動団体です。2001年の設立から世界中で支援プロジェクトの企画・進行を進めてきました。主な活動実績は、ハイチ共和国の震災復興支援及びコミュニティ開発援助、米国のハリケーン・サンディの被災地での復興支援、チャド・スーダン間の国境で生活するダルフル難民の心のケアなどがあります。2013年11月に起こったフィリピンの超大型台風被災地へもいち早く駆けつけ、支援活動を行っています。詳しくはHP([www.israaid.co.il](http://www.israaid.co.il))をご覧ください。
- 日本での活動:
  - 津波発生4日後、イスラエイドの最初のチームが被災地に入り、支援物資を配布し、住宅を清掃し、子供向けの遊び場を設け、学校を再建しました。私たちはこの時、心理社会的ケアやポストトラウマ治療に対して急速に拡大する需要を見つけ、日本イスラエイド・サポート・プログラム(JISP)に着手しました。
  - JISPが行うプログラムは、宮城県及び福島県内の8都市において、各地のコミュニティとの緊密な連携・協力体制の上に行われています。<sup>30</sup>2012年にはプログラムが拡張され、10都市の約3万人以上の人がプ

IsraAID <http://www.israaid.co.il/>



## OUR MISSION

For over a decade, IsraAID has been helping people all over the world overcome extreme crises and has provided millions with the vital support needed to move from destruction to reconstruction, and eventually, to sustainable living.



Sierra Leone



South Sudan



Philippines

## (4)－1 ヒーリングジャパンプロジェクト

- 震災から数年経った現在でも未だ100万人以上が心の傷やトラウマといった見えない被害を抱えていると言われております。JISPは芸術や音楽など、非言語セラピーを用いたPTSD(心的外傷後ストレス傷害)ケアや、PTSD予防の参加型トレーニングワークショップを国内外の専門家と共に提供し、現在では、10都市以上から、教師や養護教諭、カウンセラー、ソーシャルワーカー、地元のリーダー、NPOスタッフらから成るグループが参加しています。ヒーリングジャパン・プロジェクトは、理論的カリキュラムと実践を中心に行う多面的なプロジェクトであり、トラウマが残る被災者に対して、支援を行う地元の専門家ネットワークの開発を目指す集中トレーニング・コースです。

- ・ 目標:
- ・ ・ ポスト・トラウマに関する知識、そのプロセスや典型的、或いは、病理学的な警告シグナルに関する理解を、東北地方の専門家に提供する。
- ・ ・ トラウマに関する問題への対処法として、アート、音楽、演劇、心理ドラマやムーブメントの利用方法を紹介する。
- ・ ・ トラウマ治療において世界的に先端を行くイスラエルの技術を、日本独自の文化に順応・適合させる。
- ・ ・ トラウマの問題に高い技術を持って持続的に対応できる専門家ネットワークを構築する。
- ・ ・ 他者に相談する前の自助策として、ポスト・トラウマの症状を経た多くの患者のためのプラットフォームとして、トレーニングを利用する。
- ・ 実績:
- ・ ・ 宮城、福島及び岩手県の10都市以上から、教師、ソーシャルワーカー、政府関係者、ボランティア、NPOスタッフ及び地元のリーダーら数百名がトレーニング・グループに参加しました。
- ・ ・ カリキュラムの組み立てやワークショップの実現に、米国及びイスラエルの専門家20名以上が参加しました。
- ・ ・ 2011年11月、イスラエイドは、ニューヨーク日本商工会議所から表彰を受けました。また、宮城県知事からも栄誉賞を授かりました。

## (4)ー2 東北の声プロジェクト

- 「東北の声」プロジェクトは、東北大震災及び津波の発生1か月後に付け加えられたプログラムで、心理社会学ワーカーらが被災者のトラウマの予防、回復力の増加、対処メカニズムの基盤強化を手助けするために始められました。今日では、「東北の声」プロジェクトには、経験豊かなイスラエル人スタッフや他の国々のトラウマ治療専門家によるトラウマ予防活動も含まれています。専門家らは、ヒーリング・ジャパン・プロジェクトの卒業生であり、彼らは徐々に交代して活動します。また、東北の声プロジェクトでは、地元自治体やグローバル企業の日本支社の協賛の下、仮設住宅内における文化イベントも行われています。

- 目標：東北大震災及び津波の被災者のうち、特に、仮設住宅で暮らす子供たちやお年寄りの方々を対象にして、ストレスを解放、回復力を強化させる。
- ・ 地域のサポートを向上させ、孤立を回避するために、仮設住宅内における新たな結びつきを構築する。
- ・ 東北地方において、トラウマや対処メカニズムについての自覚を強める。
- ・ 被災者へのインタビューや被災地の記録に関する映像資料を作り、貴重な史的資料としてコミュニティのアーカイブを作り、将来に記録を残していく。
- ・ 仮設住宅の住民を支援するため、文化イベントや地元のイベントを主催する。
- 実績：子供たちや年配の方々800人以上が恒常的に、イスラエイドの「東北の声」イベントに参加しています。仮設住宅の9か所以上が、「東北の声」プロジェクトに参加しました。
- ・ オーラル・インタビュー・プログラムで、115人以上がインタビューを受け、記録を残しました。
- ・ ストレス解放を目的とする地域社会の活動が ヒルトン東京

## (4)ー3 未来創造プロジェクト

- 生活と社会的結束力を助長するための若者のリーダーシップと職業的スキルのトレーニング・プログラム
- 大地震と津波により作り出された根本的で長期的な問題の一つは、東北地方の主要産業である漁業と農業が大打撃を受け、その復興に時間がかかっていることで、失業率が上昇したことです。不確実なこの経済状況に大きな影響を受けた人々の中には、新たな職場で新たなスキルを習得する必要がある、地域の若者たちがいます。東北の長期的復興には、次世代のリーダーを地元から育成する事が不可欠だと私たちは考え、被災地で生活している若い人たちに、将来の希望や夢に繋がる社会体験を提供しています。プロジェクトは、グループ活動と基礎的なリーダーシップスキル、職業トレーニング及び地域プロジェクトの3段階から構成されています。

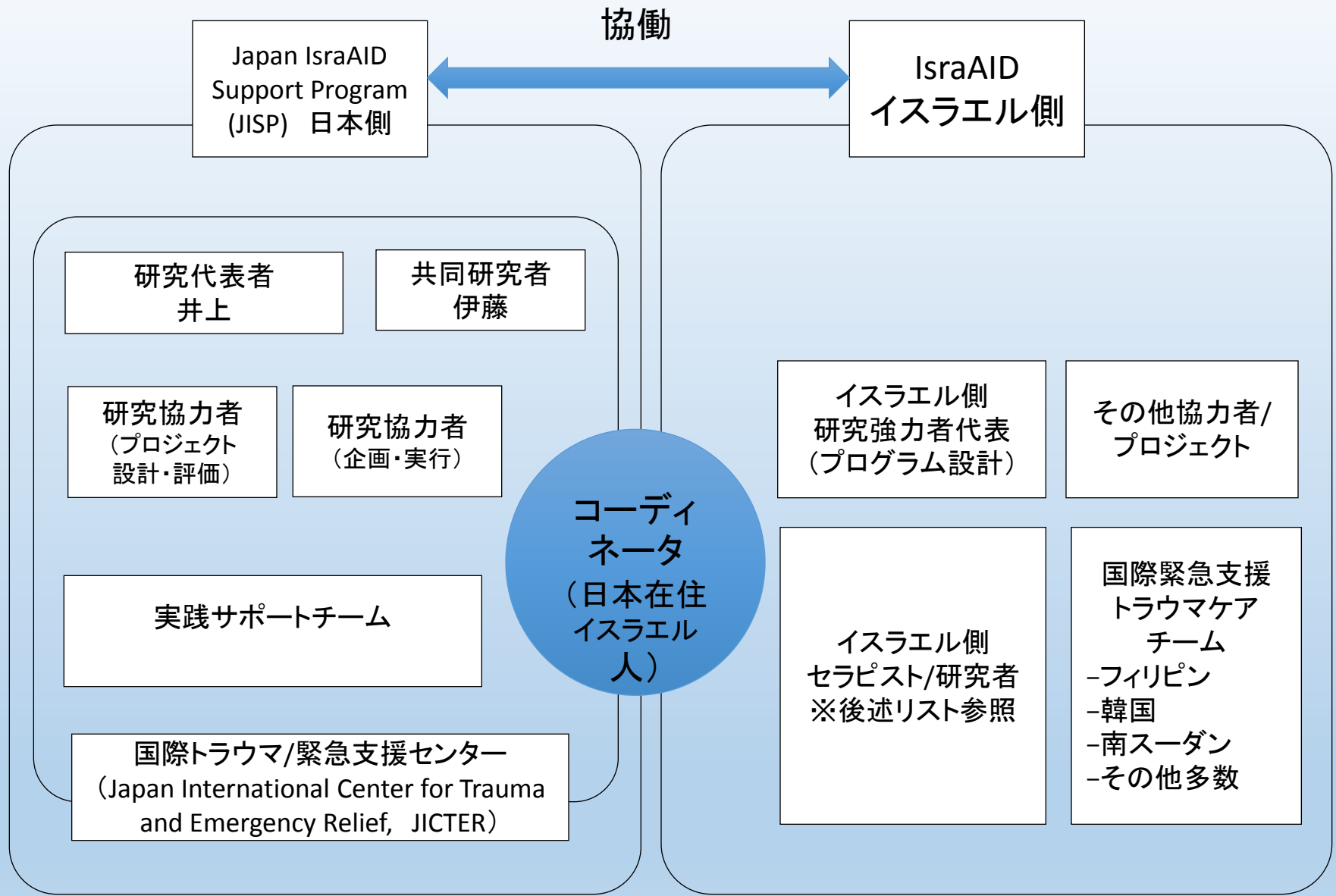
- 目標:
- ・ 東北地方の若者の自信と社会的なリーダーシップスキルの強化。
- ・ グローバル企業の日本支社における職業訓練を通じて、東北地方の若者の雇用の機会を拡大させること。
- ・ 若者参加の地域復興プロジェクトを助長すること。
- ・ 若者と地域社会とのコミュニケーションや協力を促進すること。
- 実績:
- ・ ヒルトン東京及びHP(ヒューレット・パッカード)アジアの協力の下、若者のための職業訓練セミナーが成功の内に開催されています。
- ・ イスラエイドのスキル及びリーダーシップ・プログラムに、120人以上の若者が参加しました。

## (4)ー4 ストーリーテリングプロジェクト

- ～次の支援を支援するためのアンケート調査～
- 震災から3年以上が経った今も、元気な東北を取り戻すために、やるべきことはたくさんあります。そこでわたしたちは、これまでわたしたちや他の様々な団体が行ってきた活動を振り返るために、そして、これからの支援のかたちを検討するために、皆様の声を聞かせていただきたいと考え、アンケート調査を行うことになりました。
- JISPと国際NGOグローバル・ギビングの協同プロジェクトとして始まったストーリーテリング・プロジェクトは、東日本大震災後の支援活動についての調査を行っております。個人、団体、行政などによる活動内容をヒアリングし、それを統計的に分析することにより、これまで効果的だった活動、これから必要な活動を多くの方に共有することが目的です。現在までに1000人以上のアンケートを集めており、それらを使って世界中の様々な支援団体が東北の支援のために役立てております。

## (4)ー5 JICTERプロジェクト(計画中)

- 不測の災害多発の今日、被災者および支援者のトラウマケア／PTSD予防のための専門的な人材養成が喫緊の課題である。3年間の東北支援を通じて構築してきた知見とネットワークを元に、
- (1)トラウマ/[PTSDケア先進国イスラエルの専門家との連携により、心理・医療・福祉等の専門家向けにトラウマケアの新しい概念モデルであるリカバリーを標榜する「トラウマ/PTSDリカバリー専門家養成・支援プログラム」を開発・実施し、
- (2)アクションリサーチの形でエンパワーメント評価を行う。プログラム内容は、特に海外で「レジリエンス強化技法」として知られる「表現セラピー」を根幹とし、イスラエルと連携しながら日本的に設計・実施する。
- 同時に多職種の専門家をネットワーク化し、フィードバックや結果データの蓄積により、プログラムを改良し、現場に繋げる。これはトラウマ/PTSDリカバリーにあたる専門家の継続的な養成と支援者の支援を可能にするものである。



## (5) まとめ

- JISP (日本イスラエイド・サポート・プログラム) とは
  - 1) 心理学者として研究に関わり、
  - 2) 代表理事として運営に関わっており、Win-Winの関係にある
- ★ 国家と人びとの区別: ガザ攻撃と集団的自衛権
- ★ JICTER のプログラム評価の方法が課題



文献：  
[www.itotakehiko.com/業績一覧/](http://www.itotakehiko.com/業績一覧/)

からダウンロード  
できます。

## 業績一覧

### < 論文一覧 >

[-2014年-](#) [-2013年-](#) [-2012年-](#) [-2011年-](#) [-2010年-](#) [-2009年-](#) [-2008年-](#) [-2007年-](#) [-2006年-](#) [-2005年-](#) [-2004年-](#) [-2003年-](#) [-2001年-](#) [-2000年-](#) [-1999年-](#) [-1998年-](#) [-1997年-](#) [-1996年-](#) [-1995年-](#) [-1994年-](#) [-1993年-](#) [-1992年-](#) [-1991年-](#) [-1990年-](#) [-1989年-](#) [-1988年-](#) [-1987年-](#) [-1986年-](#) [-1985年-](#) [-1983年-](#) [-1981年-](#) [-1980年-](#) [-1979年-](#)

### < 学会発表 >

[-2014年-](#) [-2013年-](#) [-2012年-](#) [-2011年-](#) [-2010年-](#) [-2009年-](#) [-2008年-](#) [-2007年-](#) [-2006年-](#) [-2005年-](#) [-2003年-](#) [-2002年-](#) [-2001年-](#) [-2000年-](#) [-1999年-](#) [-1998年-](#) [-1997年-](#) [-1996年-](#) [-1995年-](#) [-1994年-](#) [-1993年-](#) [-1991年-](#) [-1989年-](#) [-1987年-](#) [-1986年-](#) [-1985年-](#) [-1984年-](#) [-1983年-](#) [-1982年-](#) [-1979年-](#)

### < 論文一覧 >

- 2014 -

182 中ルミ・天野博・いとうたけひこ 2014 在宅看護にいかすエネルギーフィールドへのケア：ヒーリングタッチの効果 Journal of International Society of Life Information Science, 32(2), 233-236.



R182.pdf

Adobe Acrobat ドキュメント [547.9 KB]